

カラー「クリスタルブラッシュ」の秋切り栽培は 前年5月定植の再利用球で収量アップ

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

花き—カラー—その他

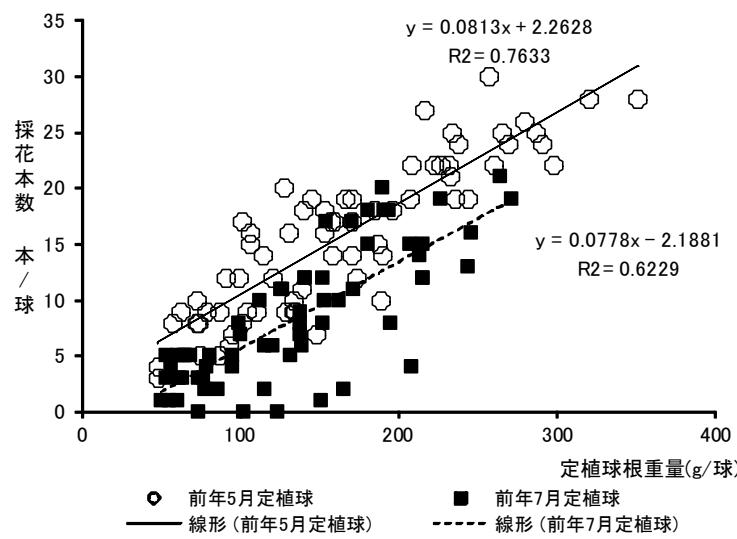
2 担当者

大竹真紀・堀越紀夫・鈴木美枝

3 要旨

畠地性カラーの秋切り栽培では、主に高価な輸入球を用いており費用負担が大きい。切り下球を利用しながら球根養成と切り花生産を行うことで収量の向上が見込める。

- (1) クリスタルブラッシュの秋切り栽培では、前年5月定植した切り下球が適する（図1）。
- (2) 秋切り栽培で10本以上の採花本数を得るには、球根重量が概ね150g以上あればよい（図1）。
- (3) 重量が不足する球根は、5月に定植して採花しながら球根の充実を図るのがよい（図2）。
- (4) 秋切り栽培後の球根は球数が増え、次作に利用できる（表1）。



*品種:クリスタルブラッシュ、定植:2014年7月9日

図1 秋切り栽培における球根の前歴と採花本数

表1 秋切り栽培後の球根の肥大状況

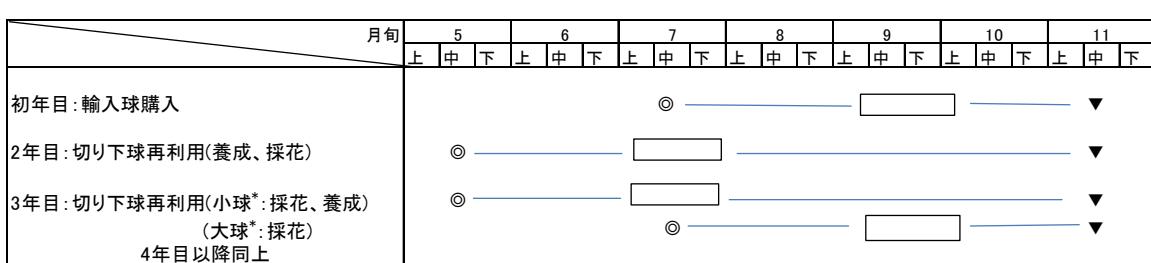
前年の定植時期(月/日)	球根重量(g/球)	球根肥大率(%) ¹⁾	球数(個)
5/7	221.1	353.6	160
7/10	186.7	294.4	158

* 品種:クリスタルブラッシュ

* 定植:2014年7月9日、掘りあげ:2014年11月21日、風乾後:2014年12月26日

* 栽培地:猪苗代町地域農業活性化センター

1) 球根肥大率:風乾後の重量／定植時の重量



* 大球:150g/球以上、小球:150g/球未満 ○ 定植 □ 口收穫 ▼ 挖上

図2 畠地性カラーの栽培体系の特徴

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成24~26年度
- (2) 研究課題名 会津地域の特色を活かした野菜・花きの高品質安定生産技術の確立
(畠地性カラーの低コスト栽培体系の確立)
- (3) 参考となる成果の区分 発展見込

5 主な参考文献・資料 なし